

JICA 中国事務所ニュース 5月号

目次

【四川大地震1周年特集】

- ◎ 四川地震こころのケア人材育成プロジェクト開始..... 2
- ◎ 地震多発国日本の経験と技術を生かして..... 2
- ◎ 対中援助30周年・四川大地震1周年記念活動会が開催..... 3
- ◎ 円借款を生かして進む復旧・復興事業..... 4
- ◎ 末端の被災地へ届くサービスを！..... 5

【ニュース】

- 北京の青空に映える日中友好の桜木..... 5
- 日中協力地震緊急救援能力強化プロジェクト..... 6
- 全人代と民訴法セミナーを開催..... 6
- 草原における環境保全型節水灌漑モデル事業..... 6
- 日中林業生態研修センター計画プロジェクト..... 7

【帰・赴任者紹介コーナー】..... 8

【寄稿コーナー】..... 9

【人の動き・主要行事】..... 12

四川大地震1周年特集

四川大地震1周年にあたって

四川大地震発生から1年がたちました。ここにあらためて震災の被害にあわれた皆様に、心からお見舞いと哀悼の意を表したいと思います。

日本はこの1年間、多くの地震を経験した国として、四川大地震復興に向けた取り組みにさまざまな形で協力をしてきました。震災直後の緊急援助隊の派遣に始まり、当初は『ワクチン予防可能感染症のサーベイランスプロジェクト』でワクチンを保存するための冷蔵設備の供与を行ったり、実施予定の研修やセミナーに、被災地や地震・防災関連の人材を追加で受け入れるなど、既存の協力を生かしたすばやい協力を行いました。

また、昨年7月には住宅・都市農村建設部と協力して北京市内で復興支援セミナーをいち早く実施し、今後の被災地の復興に向けての協力を開始するとともに、まちづくり・心のケアの分野でプロジェクト形成調査を行い、復興への協力の方向性をさぐりました。このような活動の積み重ねにより、この1年の間に新たに『こころのケア人材育成』と『耐震建築人材育成』の二つの技術協力プロジェクトが始まっています。

以上の通り、私たち JICA は、大小 20 以上のさまざまな復興への協力を、震災発生直後から切れ目なく続けてきました。私たち JICA はこれからも、中国の復興への取り組みに寄り添う形で協力を継続し、一日も早い被災地の復興と、災害に強い社会の構築に協力していきたいと考えています。
(中国事務所長 山浦信幸)

四川地震こころのケア人材育成プロジェクト開始

～兵庫の専門家が被災地の学校を訪問～

2009年4月27日、中国四川省成都市において中華全国婦女連合会とJICAの間で「四川大地震復興支援—こころのケア人材育成プロジェクト」に関する合意文書の署名が行われ、正式に技術協力プロジェクトがスタートすることになりました。

地震により大きなこころの傷を抱えた人たちは今でも多く、自殺などの問題が次々と発生しています。このため、こころのケアに関する取り組みの強化や長期的な対応が必要とされています。本プロジェクトでは、被災地域でこころのケアの活動に従事する人材育成を5年間の計画で進めていく予定です。地震国日本での長期的なこころのケアの経験を、中国での活動に活かしていくことが期待されています。

今回のプロジェクト開始に併せて、阪神淡路大震災でのこころのケアの経験を持つ兵庫県の専門家チームが陝西省宝鶏市の被災地を訪問し、被災した学校の訪問などを行

いました。

陝西省宝鶏市では地震後、カウンセリングや様々なイベントの実施などこころのケアに取り組んできたそうですが、心理の専門性を持つ人材が少ないことや、継続的なサポートが少ないなどの問題が残されています。現地の先生達の話によると、今でも夜に悪夢を見る子供や、授業に集中できない子供がおり、こころのケアのニーズは依然として高いこともわかりました。

また、日本からのメンバーとして参加された兵庫県立舞子高校の諏訪清二先生からは、訪問した学校の子供達に、神戸の子供達が描いた大きなヒマワリの絵巻物が手渡されました。これには、「神戸と四川地震の被災地はつながっている」というメッセージが込められています。このような活動の一つ一つも、広い意味でのこころのケアにつながっていくと考えています。

(保健医療/社会保健班 坂元芳匡)



合意文書の署名によりプロジェクトが正式に開始されました



神戸の子供達が描いたヒマワリの絵が贈られました

地震多発国日本の経験と技術を生かして

～耐震建築人材育成プロジェクトが開始～

5月12日午後、JICA 中国事務所では全員が仕事の手を止め、四川大地震の犠牲者に黙祷をささげました。その時間私は「耐震建築人材育成プロジェクト」の記者発表会の会場で、参加して下さったマスコミの皆さんとともに、被災者のご冥福を祈っていました。

耐震建築人材育成プロジェクトは、四川大地震発生の1年後となる5月12日、JICA と住宅・都市農村建設部の合意文書の署名をもって、3年間のプロジェクトを開始しました。このプロジェクトは日本政府による四川大地震復興支援の中の、まちづくり分野の協力と

して行われることとなったものです。

四川大地震では、多くの犠牲者が倒壊した家屋の下敷きになって亡くなったといわれています。私はこの3月に被災地を訪問しましたが、被害の大きかった北川県は想像を絶する状況で、ほとんどの建物が崩れているという状況でした。干してあった洗濯物やぬいぐるみが投げ出されたままになっているその現場で、幸せな生活を一瞬にして失った人々を想い、これからの復興・減災への協力推進への思いを新たにまた、強くしました。

このプロジェクトでは、地震多発国である日本の経験と耐震技術を生かし、中国の構造技術者の能力向上と、耐震基準を実際の設計・施工に生かすための制度構築に対す

る提言を行っていきます。3年間で約150名もの研修員を日本に招くほか、これらの研修参加者が、帰国後中国国内でインストラクターを養成し、それらの人がさらに技術者たちの研修を担当していくという形で、プロジェクト終了後も継続的に人材育成が行われることを目指しています。

日中関係機関のがんばりで、非常に短い準備期間で開始に至ることができたこのプロジェクト。われわれはこの勢いのまま、全力で目標達成に向け走っていきたいと思っています。そして、中国における地震被害軽減のために、さらには人々の安心な暮らしに少しでも役立てればと考えています。

(改革開放・ガバナンス班 倉科和子)



震災の傷跡が残る北川県



記者発表会では黙祷を捧げました

対中援助 30 周年・四川大地震1周年記念活動会が開催



ドナーへの感謝の言葉を述べる商務部・陳徳銘部長

今年は中国政府が外国の援助を受け入れてから30周年に当たります。また、5月12日は四川大地震が発生してからちょうど1年となります。この節目の時期に当たり、長らく

外国からの無償援助(技術協力を含む)の受け入れ窓口の役割を果たしてきた商務部は、5月11日、「対華援助合作30周年及び汶川地震一周年記念活動会」を開催しました。記念活動会には国際援助機関及び各国使節団代表約30名、國務院関係部委、関係地方政府代表約100名が出席し、日本大使館から片山公使他、当事務所からは山浦所長他が列席しました。

記念活動会の冒頭挨拶に立った商務部陳徳銘部長から、「本年は、中国が外国政府及び国際機関から無償援助を受けて30周年にあたるが、対中援助は中国の対外開放と発展の歴史とともに歩み、既に中国の対外開

放という基本国策の重要な内容となっている。この機会に、すべての開発援助専門家、学者・政府関係者に深く感謝と敬意を表す。中国人民は永遠に彼らを忘れない」と30年の協力に対する感謝の意が述べられるとともに、四川大地震に対する国際機関及び関係政府からの緊急援助、復興再建支援に対する物資・資金の協力に対し、商務部を代表して感謝の意が表されました。

また、四川大地震への支援に対し、四川省人民政府を代表して蒋先継顧問から国際

機関及び関係政府に対し感謝の意が述べられ、商務部、四川省政府の代表から各国際機関及び関係政府の代表に対し「抗震救災復興再建貢献奨」が授与されました。

セレモニー終了後、参加者は商務部内のホールに展示された対中援助30年間の軌跡を示す写真展を参観。写真展には日中友好病院やチベット結核病コントロールセンターなど多くの日本のプロジェクトの写真も展示され、我が国対中 ODA の長い歴史を感じさせました。
(総括次長 岡田実)

円借款を生かして進む復旧・復興事業

～都江堰で建設される1,500の農家用メタンガス施設～

2008年5月12日に発生した汶川大地震では、未曾有の深刻な被害を被災地にもたらしました。被災地では多くの困難があるなか、都江堰市では有償資金協力(円借款)を活用した復旧・復興事業が急ピッチで行われています。

四川省の12県では、有償資金協力(円借款)を活用して実施される「四川省長江上流地区生態環境総合整備事業(円借款承諾額:65.03億円)が実施されています。2005年から始まったこのプロジェクトでは植林・植草(約9万ha)、省エネ施設となるメタンガス施設の建設が行われる予定です。

汶川大地震を受け、重点被災地である都江堰市では、市郊外の農家の再建と合わせメタンガス施設の建設(1,500カ所)を円借款を活用して行われることになりました。

この「メタンガス施設」という言葉、耳慣れない方も多いと思いますが、中国(特に南方)では既に多くの地域で活用されています。不法・過剰伐採を防ぐため、各農家にメタンガス施設を建設し、豚等の家畜や住民の屎尿等をタンクで一定期間発酵させ、それにより発生するメタンガスを利用して、薪の代替燃料とするものです。発酵して発生したガスはガス管を通り、台所や洗面所、風呂などで利用されるほか、発酵後の残滓は有機肥料として樹木や農作物の肥料に使われます。



メタンガス施設(タンク部分)を視察する JICA 所員

都江堰市で建設されるメタンガス施設の平均コストは約3,000元(4.5万円)とされていますが、薪の購入減等により農家は年間約800元程度の節約になる見込みであり、4年ほどで投資コストを回収することができます。その他にも、植樹伐採量の減少、薪集めの労働時間の節約、ガス化による住民の利便性の向上、厨房の衛生状況の改善など、多くのメリットがあることに加え、昨今注目されている「省エネ・循環型」というコンテキストにも合致しています。

民生向上と環境対策を同時に行うことができるメタンガス施設が、汶川大地震の被災地から立ち上がろうとしている人々の役に立つことを願って止みません。(環境1班 張陽)

末端の被災地へ届くサービスを！

～ワクチン予防可能感染症プロジェクト 機材引渡し式参加～

去る3月27日、四川省衛生庁 王副庁長立会いの下、冷蔵庫・オートバイの引き渡し式を成都市内で行いました。

これら機材はワクチンを低温のまま農村の末端住民へ届けるための「コールドチェーン」といわれるもので、大地震によって村落保健所の多くの冷蔵庫が損壊したり、またそもそもコンディションの悪い山間地域の道路が地震によって更に悪化し、ワクチン搬送のための有効な移動手段の確保が急がれていたことから、急遽追加供与を行うこととしたもので、四川省・甘肅省あわせて冷蔵庫400台、オートバイ200台を届けました。特にオートバイの導入については、人口のまばらな山間地域における防疫活動の「機動力」として現場からは長年に渡り要望が出ていながら、中国政府としても中々手が回っていなかったという事情もあるようで、現地では高い評価を

得ました。



これで迅速にワクチンが届けられます

それでも最末端地域においては、如何なる乗り物も寄せ付けない、道なき道を徒歩で各戸巡回しながら保健活動を行っているとも聞きました。頭が下がります。

これからもひとりひとりに届きめ細かなプロジェクト活動を心がけていきます。

(業務次長 藤本正也)

ニュース

北京の青空に映える日中友好の桜木

～北京市環境整備事業完成式典～



完工式典で祝辞を述べる大使館片山公使

紺碧の青空が広がる4月15日、北京正東電子動力集団有限公司の工場敷地内で「北京市環境整備事業」の完成式典が行われました。式典には、中央政府(財政部・発展改革委員会)、北京市政府、日本大使館をはじめ

めとする日中両国関係者数百人が出席しました。本事業は ODA の一つである有償資金協力(円借款)を活用し、ガスコンバインドサイクル設備等の建設を行う環境・省エネ事業です。完成後は石炭ボイラー102台が撤去され、年間約30万トンの石炭使用量の削減が見込まれています。

本事業サイトは「798 芸術区」や「751D-Park」が位置するクリエイティブ産業地区に位置し、多くの市民がこの事業の恩恵を受けるほか、温暖化対策という地球規模問題への対応という点でも大きな意義があると思います。

完成式典ではメインプラントの受注企業である川崎プラントシステム株式会社から、日中両国交流の象徴として桜の木の贈呈目録

が手渡されました。澄んだ青空に映る桜の姿・・・来年の春が楽しみです。

(環境2班 黄濤)

日中協力地震緊急救援能力強化プロジェクト

これまで事務所では、「ああ、あの全然始まらないプロジェクトね」といわれていたこのプロジェクト。2007年5月に採択され、翌6月には最初の調査が入り、と出だしは良かったものの、その後なかなか動き出せず、関係者をやきもきさせていました。

が、皆さんご安心ください！今年3月に派遣された事前調査団は、プロジェクトの実施機関である地震局はもとより、協力が欠かさない公安部消防局とも協議を行い、それまで前に進めなかった点を一つずつ解きほぐして

いきました。さらに、5月末に派遣される調査団は、プロジェクト開始に向け大きな一歩を踏み出してくれることと思います。

これまで、やきもきしながらも、そして幾度にもわたる様々な問いにもいつも真摯に対応して下さった地震局の皆さん、ありがとう。ようやくここまでたどり着きましたね。これからも協力して、いいプロジェクトを作っていきましょう。(つづく・・・次回はプロジェクトの内容をお知らせしたいと思います)

(改革開放・ガバナンス班 倉科和子)

全人代と民訴法セミナーを開催

5月5日と6日に北京市で「日中民事訴訟法セミナー」が開催されました。このセミナーはJICAと全人代法制工作委员会の協力により一昨年から実施中の「民事訴訟法・仲裁法改善プロジェクト」の活動の一環です。

今回は慶応大学の三木浩一教授を始めとする日本のトップレベルの民訴法の専門家5名を招き、JICA 専門家、日本大使館書記官の参加も得て、中国の全人代民法室、最高人民法院、研究者等約30名の参加者が「訴

訟参加者の問題」を始めとする四つのテーマをめぐる議論を展開しました。特に訴訟参加者の決定や、送達の問題については、中国が現在訴訟実務において直面している問題に対し、日本の事例を紹介することができ、中国側からは非常に役立ったとの評価を受けました。今回のレベルの高い議論の成果が、中国民訴法の改正作業に反映されることを期待したいと思います。

(改革開放班 宗雪)

草原における環境保全型節水灌漑モデル事業

～中間レビュー実施～

4月13～29日、「草原における環境保全型節水灌漑モデル事業」プロジェクトの中間レビュー調査が実施されました。

同プロジェクトは、北西部草原地帯における家畜の過放牧に起因する草原の砂漠化を抑制するために、人工草地における飼料生産能力の強化を灌漑技術の面から支援し、モデル的な節水灌漑施設整備計画を確立することを目的として、内モンゴル自治区杭錦旗および新疆ウイグル自治区木壘県をモデ

ルサイトとして実施しているものです。

今回の中間レビューにおいては、中国側の実施機関である水利部と合同でプロジェクトの目標達成度を分析し、今後の方向性について確認することができました。

ところで、今回の調査中、内モンゴル杭錦旗を訪れた際、非常に激しい黄砂の嵐に見舞われました。10m先が見えないほどの視界の中、体中砂だらけになりながら現地視察を行いました。これほどの黄砂は当地でも

珍しいとの事でしたが、黄砂は年々激しくなっているそうです。これらの砂が日本にまで飛来していることはよく知られているところで

す。今回、私たち調査団一同、図らずも砂漠化の影響を実感することになりました。

(環境1班 松本丞史)



黄砂の中を駆け抜けました



地下水をパイプで引いて灌漑を進めました

日中林業生態研修センター計画プロジェクト

～終了時評価～

2004年10月から5年間行っている日中林業生態研修センター計画プロジェクトの終了時評価が2008年4月13日から24日に実施されました。このプロジェクトは中国の六大林業重点事業を担う県レベルの人材を育成するために、林業管理幹部学院をカウンターパート機関として、8つの省の林業研修機関とともに、研修コースの開発・実施や研修方法の開発などを行っています。また、情報の収集・蓄積・発信や関連プロジェクト・NGO等との連携も行っています。プロジェクトで実施し

てきた研修の評価は高く、また、プロジェクトで開発した研修手法も大変効果的だと関係者から好評を得ていることが終了時評価で確認されました。プロジェクトのホームページが日中の林業関係者に幅広く活用されていることもプロジェクトの高い評価につながっています。幹部学院や国家林業局の関係者はプロジェクト成果を持続、普及させていきたい、との意欲を示しており、今後更に中国の林業人材の育成が進むことが期待されます。

(環境1班 足立佳菜子)



国家林業局関係者の参加も得て行われた終了時評価



プロジェクトで作成した教材の一部
 全部で417種類を作りました

帰・赴任者紹介コーナー

(1) 長期専門家 蜂矢正彦



「ワクチン予防可能感染症のサーベイランス及びコントロールプロジェクト」は甘肅、新疆、四川、寧夏、江西の5省・自治区で、より多くの子供たちに麻疹・B型肝炎・ポリオ・日本脳炎のワクチンを接種して子供の健康を

守るために活動しています。国家や省の疾病コントロールセンターのカウンターパートと一緒に地方の郷鎮衛生院を訪ね、ワクチン接種に関わる業務を評価したり、地域での改善策を提案したりしてきました。今年3月の中間評価では順調な進捗が確認されましたが、まだまだ課題も多いです。皆様のサポートにより無事帰国(たぶん)することになりましたが、今後も日本からプロジェクトをサポートする所存です。30回近くの地方出張を経て、多くの中国人と友人になり、中国の文化やシステムについて学び、ついでに十分な脂肪も蓄えることができました。数多く身に付けたもののうち是非脂肪だけは落とし、また中国に來たいと思います。

(2) 長期専門家 砺波匡

2007年6月に開始した「住宅省エネルギー技術向上プロジェクト」ですが、2009年5月に無事終了し同時に離任いたします

プロジェクトでは、建物の設計・施工をする際の参考書となる「ガイドライン」と、出来上がった建物がきちんと省エネルギー性能を備えているかを判断する「評価指標および方法」を作りました。途中強く感じたのは、C/Pが想像できないほど日本とは異なる考え方を、ということです。例えば、こちらが中国向けに手直した技術よりも日本の生の技術に関心を示されたり、図面重視か現場測定重視かで相当議論したりしました。異文化を理解するのは容易ではないということと何故そのような考え方をするのかを現場を通じて理



解する必要があることを学んだと思います。

今回の成果は近く出版され、微力なりとも中国社会の省エネに貢献できるかと思えます。その行く末と事務所、専門家の皆様のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

(3) 長期専門家 東崇史

「中国草原における環境保全型節水感慨

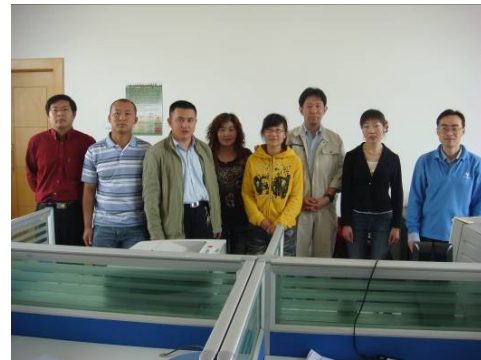
モデル事業」の節水灌漑の専門家として

2007年6月1日より派遣された東です。この5月31日に日本へ本帰国となりました。

思い起こすと2年前に北京空港の第2ターミナルから入国しました。その日はやけに蒸し暑く、まだ中国語もほとんど分からず妻と二人で荷物240kg(ダンボール20個)+ちび二人の大荷物を抱え非常に緊張してゲートを出てきたのを覚えています。それからの2年は非常に早く過ぎていき、いつの間にやら帰国日を迎えることになりました。この2年間で出張26回、個人旅行で7回いろんな中国を見ることができました。

特に、当プロジェクトのサイトの内モンゴル自治区コウキンキと新疆ウイグル自治区ムーライ県で仕事をさせていただいたことはいい思い出です。仕事は当然ですがカザフ族の家で食べたチーズや、モンゴル族の家で見た子供のカシミア山羊は一生の思い出

す。



今後は国内の仕事に戻るようになりますが、中国で得たさまざまな知見や経験を生かして頑張りたいと思います。また中国に来る機会がありましたらよろしくお願ひします。

寄稿コーナー

(1) リハビリ専門家来院

私は昨年の7月から、河北省石家庄市にある「河北医科大学第三医院」に作業療法士として勤務しています。慣れない任地での生活には戸惑うこともありますが、勤務先やまわりの人たちに助けられながら元気に生活しています。

■ ヒトが一人の人間として

「中国は家族(=面倒見る人)が多いでしょ。だから生活が自立しなくても大きな問題じゃない」

作業療法士として赴任して半年経った頃、同僚にこう言われて衝撃を受けたことがあります。

ヒトが一人の人間として生活を営むためには「自分が主体的に何かを考え、能動的に何かを行う」ということ、「自らが楽しみ、喜び

などの感情を持って行動を起こす」ということが最も大切だと思います。障害を負って以前と同じ生き方が出来なくなってしまった人々に対して、もう一度その人らしい生き方を共に悩みながら形作っていくのが私達の仕事ではないかと考えています。

■ 理解を深めるために

しかし中国の現状では「病前同じようにできないこと」は家族が手伝って当たり前、やり方を工夫して、本人が自分の手で行えるように・・・とはなかなか考えられていないようです。患者や家族だけでなく、治療師自身も無意識であることが問題だと感じていました。ちょうどそんな時、以前より交流のあった専門家の方々より、私の配属先でも協力して下さるというお話を聞き、それは嬉しい機会だと思ひ来訪の運びとなりました。

■ 待ちに待った専門家来院

この度、訪問していただいたのは、JICAリハビリ専門家の山路博文先生と新川寿子先生。お二方は中国中西部地区リハビリテーションプロジェクトでご活躍されています。両先生は彼ら(患者)を否定するのではなく、身体の回復も考慮に入れた上で、自分がこの先どんなことをして生きたいか、長い目でみた目標を立てていこうという風に話を進めていきました。患者の中には自分の希望を打ち明ける中で涙を流す方もいました。

きっとその方は障害を負った時点で全てを家族に任せる受身的な生活を送っていたのではないか。家族に負担をかけるから、と自分の意見を押し殺していたのではないか。私自身もどれだけ患者の声に耳を傾けることができているのだろうか。「どうせ理解されない、どうせ伝わらない」と文化や習慣、自分のコミュニケーション力のせいにして避けていたような気がします。表面的な部分しか見ていな

かったのだということに改めて気づかされました。

■ きっと伝わったはず

今回の専門家訪問を経験して、リハビリ科の主任も「素晴らしかった。」と感動していました。きっと彼女も患者の声を傾聴することの大切さを改めて感じたのだらうと思います。そして目の前の訓練だけにとらわれるのではなく、患者を中心として自分自身で選択しながら生きていく、その道筋がリハビリテーションだということが少し伝わったのではないかと思います。治療態度や様式が今すぐに変化していくものではないと思いますが、一人一人の心の中にはしっかりと刻まれたのだと思います。今後私自身ももっともっと患者と向き合って声を聞いていきたい、それぞれ個人の目標を見つけ、それに向かって一緒に成長していきたいと思います。

(青年海外協力隊 河北省石家庄市 河北医科大学第三医院 作業療法士 福田彩子)



専門家が来院指導しました



リハビリ活動中の福田隊員

(2) かわいい生徒達と出会って

私は2007年7月から、大連市第三十中学で日本語教師として勤務しています。間もなく2年の任期を終えて帰国することになりますが、その前に感じたことを書いてみました。

■ 人との出会いに感謝

わたしが中国に来て、1年と10か月。残り1か月ほどでわたしの任期は終了します。協力隊に参加して、大連に来てよかったな~と思うことの一つは、人との出会い。派遣前訓練を一緒に乗り越えた仲間や、中国隊員、事務所スタッフの方々、そして学校の先生方。みなさんに感謝の気持ちでい

っぱいですが、今回はかわいい生徒たちを紹介したいと思います。

でしまいます。

■かわいい生徒たち

わたしの配属先である初級中学は、日本の学校の中学校に相当し13歳~15歳の生徒たちが通っている学校です。

学校の特徴は「双外語教育」。日本の中学校のように英語を勉強するのと並行して、同じ時間数日本語も勉強しています。他に英語だけを勉強するというクラスもありますが、去年から「第2外国語としての日本語」が大連の初級中学で開始され、わたしの学校でもそれを取り入れています。ですから、1・2年生では授業数や授業内容の差はありますが、すべてのクラスで日本語を勉強しているというわけです！

教師にとってはみんな同じ「生徒」ですが、一人一人を見てみるとやっぱり個性があって楽しいですね。

校内でわたしに会ったときの態度も人によって様々。遠くから、「(中国語で) あ、外教だ!! なんて言えばいいの?」と言っているのが聞こえたり。「きゃー先生! 先生!!」と手を振ってくれたり。恥ずかしいのか気付かないふりをしたり。テストの点数はいつもクラスで最下位の生徒が、「おはよう!」の発音が一番上手だったり。どの生徒を見ても、かわいいな~と自然に笑顔になって、疲れも吹っ飛ん

■日本で中国語を教えたい

ある3年生の女の子がいます。彼女は日本語の教科係をしてくれています。宿題を集めて教員室に持ってきたりするので、わたしと話す機会も多いです。全部は日本語で話すことはできないので、中国語を交えたり筆談をしたりして、なんとか会話をしています。彼女と将来の夢について話した時、「先生(わたし)は中国に来て日本語を教えます。わたしは逆に、日本で中国語を教えたい。」と教えてくれました。それを聞いて、わたしはとてもうれしくなりました。一人の外国人教師に憧れを抱いて、中国語の教師という夢を持ってくれたこと。これからはそばで応援することはできませんが、彼女の夢が実現するように心の中で祈っています。

■最後に…

彼らも中学校を卒業したら、日本語を勉強しなくなったら、きっと日本語を忘れてしまうでしょう。

でもそれでもいい。いつか、中学時代を振り返った時、「そういえば、あんな日本人の先生がいたなー」と思い出してくれれば、わたしの来た意味はあったと思います。

(青年海外協力隊 遼寧省大連市立第30中学 日本語教師 宮村さおり)



日本語授業中の宮村隊員



教え子に浴衣姿を披露しました

人の動き・主要行事

(1) 主な調査団(派遣中・派遣予定)

- ・中国感染症対策プロ形調査
(5/15～5/23)

草原における環境保全型節水灌漑
モデル事業

- ・東崇史

草原における環境保全型節水灌漑
モデル事業

(2) 長期専門家・ボランティアの動き

<長期専門家>

ア. 赴任

- ・水谷 明大
耐震建築人材育成プロジェクト
- ・高橋 謙造
ワクチン予防可能感染症のサーベイラ
ンス及びコントロール
- ・菊池 由則
草原における環境保全型節水灌漑
モデル事業
- ・土岐 典広
草原における環境保全型節水灌漑
モデル事業
- ・吉田 正秀
草原における環境保全型節水灌漑
モデル事業

<ボランティア>

ア. 赴任:

なし

イ. 帰国:

なし

(3) 事務所員等の動き

<日本人所員>

ア. 赴任

なし

イ. 帰国

なし

イ. 帰国

- ・蜂矢 正彦
ワクチン予防可能感染症のサーベイラ
ンス及びコントロール
- ・砺波 匡
住宅省エネルギー技術向上プロジェクト
- ・君塚和夫
鉄道技術個別専門家
- ・叶成洋

<ナショナルスタッフ>

ア. 採用

なし

イ. 退職

なし

(4) 5月の主要行事

- ・在外事務所長会議

=====
* 皆様からの情報提供、大歓迎です。また、本紙に対するご意見、ご提案などいただければ幸いです。いずれも中国事務所沈 曉静(shenxiaojing.cn@jica.go.jp)あてにお願いいたします。
=====

* その他お知らせ

JICAのホームページ: [チャイナ ライブラリー \(和文・中文\)](#)

> <http://www.jica.go.jp/china/library/news/index.html>

> <http://www.jica.go.jp/china/chinese/library/01.html>

チャイナ トピックス (和文・中文)

> <http://www.jica.go.jp/china/topics/index.html>

> <http://www.jica.go.jp/china/chinese/topics/index.html>